

広州日本人学校便り

～平成27年1月号～



～東風東路小学との交流会～

12月3日、東風東路小学を訪問しての二校間交流会が行なわれました。中国・広州の子どもたちと交流することにより、現地理解を深め、またお互いの文化を尊重し合う心や国際感覚を磨くことを目標としています。初夏には東風東路小学を日本人学校にお迎えしましたが、今回は訪問しての交流です。本校からは全校児童が参加し、東風東路小学は1学年10学級というマンモス校のため、各学年から選ばれた2～3クラスの子もたちが代表して参加しました。また、校舎も別々の所にある2カ所に分かれての交流となりました。

1年生は、ジェンズという中国の伝統的な遊びや変面の色塗り、広東語の歌に合わせて踊るなどして交流しました。2年生は、中国の伝統文化である“切り文字”を教えてもらったり、ケンケンパリレーで楽しくゲーム競争したりしました。3年生は、“墨絵”や粘土による工作・陶器への色塗りなどを教えてもらいながら一緒に活動しました。4年生は、切り絵に挑戦したり、ゴム跳び遊びを楽しんだりして交流しました。5年生は、お互いに日本や中国の絵を描いて紹介合ったり、大縄8の字を楽しんだりして交流しました。6年生は、中国の折り紙を教えてもらったり、竹竿舞という中国の伝統的な踊りを教えてもらったりして楽しみました。

どの学年も、中国文化に対する新しい発見があり、子どもたちにとって大変価値のある時間となりました。また、同じ空間でともに活動することにより、言葉の壁を越えてお互いに教え合い、学び合う場面が見られました。新しいことを発見したときの笑顔。ともに学んでいるときの笑顔。交流会では、たくさんの笑顔が見られました。

こうした文化交流を通して、人と人とのつながりが生まれ、国と国の架け橋となっていきます。文化とは、その土地の人々が、生活をより豊かにしていくために長い年月をかけて作り上げてきたものです。子どもたちが、異文化に出会った時、互いを尊重し理解しようとする心をもつことこそ、国際感覚を養っていく土台となります。今後も、現地理解を深めるだけでなく、お互いの文化を尊重し合う心や国際感覚を磨くことを大切にしたいと考えています。

